

専門ゼミ B		演習	教授 大森 肇	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目、スポーツトレーナーコースの必修科目	科目ナンバリング	11130302	

1. テーマ

身体運動に伴う応答を生理・生化学的に研究し、人々の健康増進やスポーツパフォーマンス向上に貢献する。

2. ゼミのねらい・概要

身体運動や体育・スポーツが我々人間にもたらす恩恵は図り知れない。その影響は末梢の諸器官に留まらず、中枢機能や心理的側面にも及ぶ。しかしながら、運動はただ闇雲に行えば良いというものではない。健康増進やスポーツパフォーマンス、子どもの教育などの目的に応じて、運動の種類、強度、持続時間、頻度、期間などの条件を適切に設定する必要がある。また、身体運動の科学における新たな創造に挑戦することは、社会への大きな貢献に繋がるものと考えている。本専門ゼミのねらいは、基礎知識の修得・実験実習・先行研究の調査などを通じて、4年次「卒業研究」における基盤作りをすることにある。

3. ゼミ計画

1. 後期ガイダンス	9. 先行研究の調査8:論文の抄読 (第6グループ)
2. 先行研究の調査1:学術論文の収集方法	10. 先行研究の調査9:論文の抄読 (第7グループ)
3. 先行研究の調査2:学術論文の読み方	11. 先行研究の調査10:論文の抄読 (第8グループ)
4. 先行研究の調査3:論文の抄読 (第1グループ)	12. 研究課題の検討1:ブレインストーミング
5. 先行研究の調査4:論文の抄読 (第2グループ)	13. 研究課題の検討2:ディスカッション
6. 先行研究の調査5:論文の抄読 (第3グループ)	14. 研究課題の検討3:「卒業研究」テーマの探索
7. 先行研究の調査6:論文の抄読 (第4グループ)	15. 年間のまとめ
8. 先行研究の調査7:論文の抄読 (第5グループ)	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

専門ゼミ A での「基礎知識の修得」や「運動実験実習」はゼミ生における問題意識の喚起を意図したものであった。社会には解決すべき身体運動科学的な課題が溢れている。子どもの健全な成長、学生や社会人のストレス緩和、中高年の生活習慣病の克服、競技パフォーマンスの向上、世代を越えたスポーツ文化の醸成、サクセスフルエイジングなど、課題は枚挙にいとまがない。専門ゼミ B では、各自の興味・関心に応じて先行研究を収集・抄読し、発表・討論に繋げる。各回の予習・復習に2~3時間程度の学修が必要になる。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中のプレゼンテーション、ショートレポート、ディスカッションに対して、講評や個別コメントを行う。

6. ゼミにおける学修の到達目標

- 1) 4年次の「卒業研究」に関連する先行研究を収集する。
- 2) 「先行研究の抄読・発表」を通じて学術論文の読み方を学び、ディスカッション能力を高める。

7. 成績評価の方法・基準

参加状況・受講態度 (50%)、提出物・発表の内容 (50%)

8. テキスト・参考文献

運動生理学, 運動生化学, 身体運動科学に関連する専門書, 学術論文, 学術資料を紹介する。

9. 受講上の留意事項

ゼミ生に問われるのは、これまでの知識や経験ではなく、これからの学修意欲である。4年次の卒業研究に向けて真摯に

取り組める人の受講を期待する。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無
該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連
上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。